

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520363

研究課題名(和文)パスカル・キニャール研究：文学とジェンダーの新たな関係性に向けて

研究課題名(英文)Pascal Quignard's oeuvre : On Literature and Genres

研究代表者

小川 美登里 (OGAWA, Midori)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：80361294

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：キニャール作品におけるジェンダーの概念を再検討をとおして、現代フランス文学の地平を明らかにすることを目的とした。初年度の平成23年度には、キニャール作品の射程を見極めるため、既成の文学ジャンルを逸脱する作品群を研究した。続く平成24年度には、ジェンダー概念と作品創造との関連性を分析し、キニャール作品の特異性、ひいては現代文学の前衛的な性格を明らかにした。平成25年度には作家および国内外の研究者を招聘し、国際シンポジウムを主催した。国際シンポジウムでは、それまでの研究成果を発表する機会を得たが、同時にさらに研究すべき課題も見つかったため、研究期間を一年間延長し、テーマの深化を行った。

研究成果の概要(英文)：The proposal of this project was to re-read the works of Pascal Quignard along a concept of genre constantly refashioned. The year 2011 was devoted to the detailed analysis of those works which exceed the realm of belles-lettres, the year 2012 to textual analysis with the aim to extract natures bringing concepts of genres to the fore. The year 2013 was used to organize an international colloquium inviting Pascal Quignard and French, Chinese and Japanese researchers. This colloquium, which was exceedingly fruitful, brought to light new engaging problems, which in turn demanded an extension of the research period. Thus, the year 2014 led to the results of an even more profound thematic approach concerning the original proposal.

研究分野：ヨーロッパ文学

キーワード：ヨーロッパ文学 フランス文学 現代文学 言語 芸術 批評 国際研究者交流 フランス

1. 研究開始当初の背景

パスカル・キニャールはフランス現代文学を代表する作家であり、その活動範囲は、絵画や音楽、舞踏などの他ジャンルにも及ぶ。そうした多様性は現代芸術のあり方とも関連性が高く、現代における文学の特徴をみるうえで非常に参考になるのではないかという仮説のもと、キニャール作品の分析を研究テーマとして選んだ。

また、作家がまだ生きていること、そして作品を作り続けているということは、研究対象として非常に意義深い、というのも、作家自身の創造行為が同時代と直結し、時代の変化を鋭敏に感じとり、それを作品化していくプロセスをつぶさに観察できるからである。作品創造と時代性について問う、といううえで、も格好の研究対象であった。

2. 研究の目的

研究の目的は主にふたつ。まずは、パスカル・キニャールという尖鋭的な作家を対象とすることによって、現代における文学や芸術の在り方を確認すること。キニャールのように、エクリチュールという媒介や小説などのジャンルにとどまらず、常にジャンルを越境することによって、絵画、音楽、舞踏など、いわば芸術全体をひとつの創造行為としてみなすタイプの作家は、現代という時代において決して珍しくはない。キニャールという作家の創造行為を網羅的に観察することによって、現代における創造行為とは何かを考えることが第一の目的である。

第二の研究目的は、第一の研究目的から得られた結果に直結するものである。それは、キニャールのような現代作家が、その作品の在り方をとおして、ジャンルやジェンダー概念やその理論の訂正や再定義をせまる、という前提に立ち、その結果として、ジェンダー理論を再構築するという目的である。「性差」や「ジャンル」という、これまでのジェンダー理論を担ってきた指数を解体し、新たなヴィジョンを提示することを目的とする。

3. 研究の方法

まずは、作家の幅広い活動範囲を理解し、今までに発表された全作品を網羅し、さらには文学以外の作品の分析、とりわけ絵画や音楽、舞踏、哲学などに関する作品を扱うこと。作家が関わったジャンルや方法論をつぶさに見ることによって、個人的な欲求と時代の要請が交差するなかでの、作品創造の成立形態を明らかとすること。多岐に渡る芸術創造を通して、創造行為の基盤となるものを明らかにすること。

このように、一見多様に見える作品群を貫く基本原理を抽出し、そこにジェンダーの概念を当てはめてみる。ここでは、性差という意味でのジェンダーの定義を大幅に修正

する必要に迫られるだろう。また、「ジャンル」という範疇分け、すなわち分類の手段としてのジェンダーではなく、多様なジャンルを結びつけ、ジャンル間の間隙を対象とするような作品を定義する方法論が求められるであろうし、キニャール作品の分析を通じて、まさにそうした新たな作品の有り様を定義することが可能となるだろう。

4. 研究成果

平成23年度(研究初年度)においては、まずはキニャール作品と芸術活動の全体像を把握するため、必要な資料の収集とその読み込み、分析を中心に行った。また、夏季休暇を利用してフランス国立図書館に通り、画家とのコラボレーションによる豪華本や、絶版となっている希少本などを調査した。キニャール作品の中には、こうした私家本や自費出版の著作なども多く、古代ギリシア：ローマ時代の詩人の作品を偽った翻訳など、作品の定義を逸脱したテキストも数多い。このように、作家の活動を網羅し、その初期から現在までの変遷を洗い出すことは、作品に対する意識の変化と深まりを理解するうえでも非常に有意義な作業であった。さらに、未熟ながらもそうした成果を国内外で発表する機会も得た。

平成24年度も、引き続き文献調査を行った。とりわけ、文学以外のジャンルにおけるキニャールの創作活動を明らかにするため、前年度に引き続き、フランス国立図書館における夏季休暇を利用した文献調査に加え、キニャールが関わった音楽、絵画、舞踏、演劇、映画作品の分析を行い、可能な範囲で作家の協力者や共同作者へのインタビューも行った。本年度、特に研究の対象になったのは、おもに小説や物語などのクリエーション行為の範疇外にある作品群であったが、その中でも特異な地位を占めるのが、翻訳の問題でもあった。読書・翻訳・作品創造がいわばひとつの運動として循環しているのが、キニャール作品のひとつの特徴でもある。したがって、作家の他言語や多文化の文学への眼差しについても研究した。さらに、キニャールの代表作のひとつでもある *Vie secrète* (1998年)の翻訳にも取りかかった。

平成25年度は、それまでの成果を発表し、他研究者との積極的な意見交換を行うために、国際シンポジウムを開催した(11月16・17日、於：日仏会館)。このシンポジウムには、作家パスカル・キニャールのほか、国内外の専門家を招き、二日間に渡って研究発表を行い、聴衆との意見交換も行った。本年度の活動の多くが、このシンポジウムの開催に向けた準備に割かれたことは否めないが、同時に約500ページにもおよぶ *Vie secrète* の翻訳も出版することができた(『秘められた生』、水声社)。ところで、シンポジウムでは、その基調講演において、作家キニャールから、

文学の再定義についての試みが提案された。「文学」という、あまりにも西洋的な構築物からまずは離れ、別様に「書く行為」や「読む行為」、そして「エクリチュールを生産する行為」を定義しなおす必要があるのではないか、という提案であった。この提案は、西洋/東洋(=西洋にとっての他者、異界)をテーマとした本シンポジウムに添った内容であったものの、同時に、主催者が設定したテーマを越えて、そこから引き出される新しい問題系を暗示するものでもあった。そのため、補助事業期間延長を申請し、着手したテーマをさらに深めることとした。こうして、当初の予定とは一年長い平成26年度が本研究の最終年度となった。最終年度には、研究をまとめるという使命がある。したがって、前年度に新たに提出されたテーマを深めるべく、フランスに海外出張を行い、パリ第八大学のクリスチャン・ドゥメ教授と共同発表を行ったほか、作家とも対談し、テーマについて意見交換を行った。さらに、前年度に行ったシンポジウムの成果を論集としてまとめるべく、フランスの出版社と交渉を重ね、結果的にパリ第八大学出版局からの出版が決定した(2015年6月の刊行に向けて、現在印刷中)。発表原稿を論集としてまとめるための、編集にも多くの時間を割いた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

小川美登里 (Midori OGAWA), «*Ecrire sur le corps mort du monde: sur Hiroshima mon amour*», 『フランス文学』第44号、査読有、立教大学フランス語フランス文学研究室、2015年、pp. 35-48.

小川美登里 (Midori OGAWA), «Entre la catastrophe et la survivance», in *STELLA* 第33号、査読有、九州大学フランス語フランス文学研究室、2014年、pp. 303-314.

小川美登里 (Midori OGAWA), «Les filles de l'eau, un imaginaire en partages: Marguerite Duras et quelques écrivains japonais», in *Orients de Marguerite Duras*, 査読有、numéro 60, 2014, pp. 329-342.

小川美登里 (Midori OGAWA), «*Vie secrète: de l'origine de l'amour*», in *Littératures*, numéro 60, 査読有、2013, pp. 13-25.

小川美登里 (Midori OGAWA), « Dans la

mer des ténèbres », *Lettres modernes, série Marguerite Duras*, 査読有、vol.5, 2013, pp. 20-35.

小川美登里 (Midori OGAWA), « Les instantanés: Sur Japon vu de dos de Christian Doumet », 査読有、in *Revue des Sciences Humaines*, vol. 304, 2012, pp. 155-167.

小川美登里 (Midori OGAWA), « Tout est couvert du sang lié au son », in *Pascal Quignard ou la littérature démembrée par les muses*, 査読有、Presses universitaires de la Sorbonne-Nouvelle, 2011, pp. 161-170.

[学会発表](計6件)

小川美登里 (Midori OGAWA), «Le Japon de Pascal Quignard», Séminaire de l'équipe « Littérature, philosophie, arts », パリ高等師範学校(パリ、フランス)、2015年4月3日

小川美登里 (Midori OGAWA), «Pascal Quignard et la question des genres», Séminaire de l'équipe « Littérature, histoire, esthétique », パリ第八大学(パリ、フランス)、2015年3月24日

小川美登里 (Midori OGAWA), «L'imaginaire d'un Japon secret», Pascal Quignard: Translations et Métamorphoses, スリジー・ラ・サル国際学会センター(スリジー・ラ・サル、フランス)、2014年7月16日

小川美登里 (Midori OGAWA), «L'ode de Pascal Quignard», Pascal Quignard: Littérature à son Orient, 東京日仏会館(東京都渋谷区)、2013年11月16日

小川美登里 (Midori OGAWA), «Le chant d'adieu», Mireille Calle-Gruber ou les promesses de la littérature et des arts, ソルボンヌパリ第四大学(パリ、フランス)、2013年6月20日

小川美登里 (Midori OGAWA), «Ecrire la mer», Conferencia del Cercle Critica de la Cultura, バルセロナ大学(バルセロナ、スペイン)、2013年3月20日

[図書](計3件)

小川美登里他、*Pascal Quignard, Littérature à son Orient*, Presses Universitaires de Vincennes, 2015, 220p.

小川美登里他、*Dictionnaire des Femmes créatrices*, Les Éditions Des Femmes, 2013, 4800p.

パスカル・キニャール、小川美登里（翻訳）、『秘められた生』、水声社、2013年、513頁。

6．研究組織

(1)研究代表者

小川 美登里 (OGAWA, Midori)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：80361294